

もう許せない
石原・都教委の
やりたい放題に反撃を

3～4月
卒・入学式が勝負！

「日の丸・君が代」強制反対 全組合員が不起立で闘おう

都立高で働くすべての教育労働者のみなさん。卒業式・入学式の季節がやってきました。都教委による「日の丸・君が代」の強制により、悩み苦しむ日々が続いていると思います。

私たちは、昨春の卒・入学式で「日の丸・君が代」強制に反対して不起立・ピアノ伴奏拒否を貫いた闘いに、心から敬意を表します。「10・23 通達」に怒りを燃やし、やむにやまれぬ思いで立ち上がったその行動は、教育労働者の誇りと生きざまをかけたすばらしい闘いでした。それは、労働者が戦争協力を拒否して教育基本法改悪・9条改憲を阻む道筋を示したものであり、「闘う日教組」の再生へ向けた胎動が始まったことを告知知らせました。この闘いは、日本の労働運動を階級的に再生していく大きな力を持っていると確信しています。

石原と都教委は昨年、周年行事、卒・入学式をあわせて248人にもおよぶ教職員に報復処分を下しました。

しかしこの1年間、「被処分者の会」「被解雇者の会」「予防訴訟をすすめる会」の3団体の闘いは大きな広がりをつくり出し、全国の教育労働者はもとより、他産別の労働者にも限りない勇気と展望を与え、ともに闘う決意を呼び覚ましています。

昨春の闘いに打撃を受けた石原と都教委は、今年は闘いをなんとしても封じようとしています。昨秋の周年行事には生徒指導の「新職務命令」まで発し、攻撃をエスカレートさせています。いよいよ今春卒・入学式が勝負です。

私たちは、被処分者をはじめとするみなさんの闘いを心から支持し、ファシスト・石原による東京の教育支配をうち破るために、ともに闘いぬきます。

たたかう労働運動の全国ネットワークを！

全国労働組合交流センター

台東区元浅草 2-4-10-5F TEL 03(3845)7461

E-mail centergo@nifty.com URL www.k-center.org

労組交流センターは、総評が解散して連合・全労連がつけられた1989年に、労働運動の連合化と対決して階級的な労働運動をつくり出すために結成した組織です。国鉄分割・民営化攻撃に対して唯一ストライキで闘いぬいた国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）を中心に、産別やナショナルセンターの違いを越えて闘う労働組合と労組活動家が集まって活動しています。

「日の丸・君が代」強制反対闘争は 教育基本法改悪と9条改憲を阻む闘い

昨年通常国会で有事法制を完成させた小泉政権は、昨年12月には、イラク派兵の延長、「専守防衛」を完全に投げ捨てる新防衛大綱や、武器輸出禁止三原則の見直しなど、重大な決定を相次いで行いました。今通常国会には教育基本法改悪案の提出を狙い、9条改憲へと突き進んでいます。戦後60年を期して、日本を「戦争をする国」に全面的に改造しようとしています。

「日の丸・君が代」強制とは、日本を「戦争をする国」にするための、教育基本法改悪と9条改憲の先取りです。民主党衆院議員・西村真悟が「お国のために命を投げ出しても構わない日本人を生み出す」と語っているとおりです。

小泉政権は「骨太方針2004」で、郵政民営化、公務員制度改革を推進し、義務教育費国庫負担金廃止で教育労働者の全国単一賃金を破壊しようとしています。日教組、全通（現JPU）、自治労という国家機構内部の労働組合＝官公労働組合をたたきつぶすことが狙いです。みなさんの闘いは、《戦争と民営化、労組破壊》の攻撃をうち破る、日本の労働運動の最先端の闘いです。

「教え子を戦場に送る」教師にはならない

石原や都教委は、教職員に起立・斉唱を率先垂範させて、“児童・生徒に「日の丸・君が代」を強制する先兵になれ”と要求しています。戦時中の教師と同じように、教え子に「戦争に行つて命を捨ててこい。他民族を殺してこい。それこそが日本人としての生きる道だ」と教え、戦場に送る教師になるのか、ということです。「これだけは絶対に許せない」というのは、すべての教育労働者の思いではないでしょうか。



日米韓労働者の国際連帯集会で登場した被処分者の訴えは、強い共感を呼んだ(04年11月7日 日比谷野音)

多忙化・労働強化に反撃しよう

石原が都知事に就任して5年あまり。学校現場には「教育改革」という名の「教育改悪」攻撃が次から次へとかけられ、教育労働者には極限的な多忙化、労働強化が強いられています。人事考課制度、主幹職の新設、人事異動要綱の大改悪、週案提出の強制、時間内組合活動の禁止と研修権のはく奪、等々。その結果、若年退職や病気休職が激増する事態にまでいたっています。

「もう我慢できない!」「このままでは仕事を続けることもできない!」という切実な声が、いたるところに鬱積しています。

積もりに積もった怒りを爆発させて、労働者の団結した力で石原と都教委への反撃に立ち上がりたい——これもまた、すべての教育労働者の思いではないでしょうか。

「全組合員の団結した闘いを！」 都高教本部に不起立方針を要求しよう

昨春卒・入学式を迎えるにあたって、石原が、「処分で脅せば、教職員の抵抗は封じることができる」と見くびっていたことは間違いありません。

しかし、処分という権力と暴力によって「日の丸・君が代」を強制するという恫喝は、まったく逆に「ここまでやられて黙ってられるか!」という労働者魂に火をつけ、数百人の決起を生みだしました。真に人間的な、誇りと勇気に満ちた行動でした。

確かに石原の攻撃は激しいものです。しかしそれは、労働者がその激しさの前に屈した時に初めて力を持つものであり、処分を恐れずに立ち上がった時には威力を失います。

昨年、都教委が「10・23通達」で襲いかかる中で、現場組合員にさらに苦悩を強いたのが、都高教本部の方針でした。都高教本部は「10・23通達」を受けて「もう闘うことはできない」と考え、「職務命令が出たら引く＝従う」という方針を出しました。この屈服方針ゆえに、ある者は悩みぬいた末に着席し、ある者は苦渋の思いで起立しました。好き好んで起立した組合員がどこにいるのでしょうか。誰もが、都高教として闘いたかったのです。

考えてみてください。都高教本部が「立たない・歌わない・弾

かない」方針を掲げて、全組合員が団結して「日の丸・君が代」不起立を貫いた時、「10・23通達」は何ひとつ効力のないただの紙切れになります。

石原と都教委が処分やクビの恫喝で労働者を屈服させようとしても、7000人の教育労働者をクビにすることなど絶対に不可能です。不起立者をさらに拡大し、組合員全員が不起立闘争に立ち上がるこそが、大量不当処分をうち破る道です。

都高教7000組合員が団結して闘いぬけば、石原と都教委の攻撃は絶対にうち破ることができるし、石原と都教委のもくろみを完全に崩壊させることができます。

都高教大会では、「処分撤回闘争、被処分者の支援に全力で取り組む」方針が決定されました。にもかかわらず、闘争方針案から「支援」の言葉を削除し、「起立・斉唱の職務命令に従う」としているのは、大会方針違反ではないでしょうか。

都高教が闘う方針を確立することが切実に求められています。現場から都高教本部に、不起立闘争方針の確立を要求しよう。

「生徒への強制」をうち破るのは 教職員の労働者としての抵抗闘争

都教委が「10・23通達」で教職員の抵抗を封じ、生徒への強制に一気に踏み込もうとしていたことは間違いありません。しかし昨春、都教委の予想をはるかに超える数百人の教職員が不起立を貫いた結果、昨秋の周年行事で出された「新・職務命令」の内容は「学習指導要領に基づき、適正に生徒に起立・斉唱を指導する」と、昨春と比べて大きく後退したものになりました。教職員の労働者としての抵抗が、生徒への強制をもうち破ったのです。

教職員が職務命令に従い、起立・斉唱することは、生徒への強制圧力となり、「命令には従うもの」という実地教育になってしまいます。「生徒への強制」を許さないためにも、不起立・不服従は、絶対に譲れない闘いです。

昨春の闘いを無駄にするな! 都高教7000組合員の団結こそ勝利の道

1950年代の勤評攻撃に対して、みなさんの先輩たちは、「勤評は戦争への一里塚」というスローガンを掲げて、全国ストライキで立ち上がりました。この先輩たちの闘いを再び「日の丸・君が代」闘争で復権しようではありませんか。

昨春「日の丸・君が代」不起立闘争を守り、大きく広げることこそ勝利の道です。248人もの労働者が処分に屈することなく闘いぬいてきたこの1年間の地平を無駄にすることはできません。

全国の教育労働者の仲間も、東京の闘いに心から感動して、「東京を孤立させるな!」と、今春卒・入学式闘争とともに立ち上がろうとしています。

都高教7000組合員が団結して「立たない・歌わない・弾かない」闘いに立ち上がれば、石原と都教委の攻撃は必ずうち破ることができます。

この春が勝負の時です。ともに闘いましょう!



被処分者を対象とした「再発防止研修」への抗議行動。全員が「反省」を拒否して信念を貫いた
(04年8月30日 東京都教職員研修センター前)

「日の丸・君が代」闘争の力で 教育基本法改悪を阻止しよう